

地域との連携を図った 芸術教育の充実について

【高等学校芸術科書道 事例紹介】

— 書を文化資源として社会とつなぐ学習の構築 —

愛知県立愛知商業高等学校

加藤 眞太郎

地域が抱える課題

地域の活性化と歴史・文化の保護と保全

普通科「書道Ⅰ」

【社会的課題】

- ◆ 商店街の施設・設備の活用と地域住民との協働による商店街の活性化
- ◆ 物販・販促中心の地域活性化策から、コミュニティ原理（人と人とのつながり）を重視した発想への転換

【文化的課題】

- ◆ 地域住民の文化的精神的所産としての「ふるさと意識（地元意識）」の醸成
- ◆ 地域の活性化と歴史・文化の保護・保全の両立

- 商店街の街路灯や店のシャッター等を活用した「街角メッセージ」による住民の相互理解
- 伝統的に書写・書道教育が盛んな地域の特性を生かした表現活動

学習のねらい

- ✓ 商店街を利用する人々との関わりを通して、地域の特性や自身の身の回りの生活や社会の状況を理解する
- ✓ 自らの思いや考えを書の表現で表すことを通して、**社会の中で書が果たす役割（書が社会に働きかける力）**について考える
- ✓ 地域資源を通して**自身と地域との関わり（地域や社会と連携した＜場＞）**を捉え、地域に貢献・寄与しようとする態度を養う

学習活動

- 商店街からの依頼「**見る人が元気になれる言葉**」をテーマに作品制作する
- 作品が飾られる＜場＞を踏まえ、**自らの思いを伝える相手を想定した**作品制作

学習の成果

- 毛筆表現が、**活字以上に作者の思いや考え伝える**ことを実感
- 書を大切にしてきた地域の特性・背景を理解し、**書を学ぶ意義を再認識**

地域が抱える課題

地域に根付く精神性の継承と次世代人材の育成

総合学科「書道Ⅰ」

【伝統と文化の視点】

- ◆ 郷土の伝統と文化として語り継がれる言葉の背景にある、伝統的な規範意識の希薄化
- ◆ 伝統的な規範意識が子供だけのものと捉えられがちな状況への懸念
- ◆ 地域全体で伝統と文化を継承する共通意識の必要性

- 郷土の伝統と文化、歴史（文化資源）を理解し、愛着と誇りを育てる
- 地域に根付く精神性の継承と、自らの在り方や生き方について考える

学習のねらい

- ✓ 地域に根づく言葉や価値観、考え方から地域の伝統と文化を深く理解する
- ✓ 先人の生き方や考え方から自己の在り方や生き方について考え、その思いや考えを書で表現する

学習活動

- ・ 語り継がれる言葉の背景を理解し、書の表現の素材となる言葉を自ら考える
- ・ 先人の生き方や価値観を踏まえ、自身の思いや考えを書で表現する

学習の成果

- 言葉を通して、地域の先人と自分とのつながり（人と社会の関係性）を実感し、現在の自分を客観的に捉え、主体的に自己表現することができた。
- 地域の伝統と文化が無形のものもあることに気づき、方言を取り入れて作品を制作するなど、地域の伝統と文化（文化資源）を生かした表現がみられた。

つぎが町根に秘めた方信じよ

地域が抱える課題

地域産業と資源の効果的な発信

商業科「書道Ⅰ」

【地域産業】

- ◆ 商品の魅力をわかりやすく伝えるキャッチフレーズの必要性
- ◆ 地域の若い世代の地域産業への関心の希薄化
- ◆ 地域で大切にしてきた毛筆による表現の価値が十分に認識されていない

- 地域産業の理解と地域に貢献する人材の育成
- 書が果たす役割や価値を、地域の特性を踏まえながら理解する

学習のねらい

- ✓ 社会の中で書が果たす役割や価値に気づく
- ✓ 他者の意見を踏まえ、自らの表現の意図や構想・工夫を見直すことで、より効果的な表現方法について考える

学習活動

- 商品のキャッチフレーズを素材とした商品パッケージや看板等の制作
- 企業の担当者との対話を通して、消費者視点から効果的に伝える

学習の成果

- 地域の特性（書が社会で生きる＜場＞）に合わせた表現が、商品の魅力をより効果的に伝えることに気づき、書を通して発信したいという意欲が高まった
- 自ら商品を手にとることでそのよさを実感し、それを的確に伝える言葉を考えることで、社会課題を多角的に捉える力（課題解決能力）を発揮することができた

地域の魅力を再発見し、思いを他者へ伝える

- ① 書が「**社会に働きかける力**」を実感させる
- ② 作品を通して他者に思いや考えを伝える＜場＞として「**地域や社会と連携した＜場＞**」を構築する

伝統と文化の理解から自己を深く理解する

- ① ＜言葉＞による書の表現が過去や未来の自己や他者も含めた「**人と社会をつなぐ関係性**」をもつことを理解させる
- ② 文字を美しく表現するに留まらず「**文化としての意味を読み解き、自己の解釈を通して表現する**」ことを意識させる
- ③ 書を「**文化資源**」として捉え、生徒自身と生活・地域・社会とを結びつける

社会の一員であることを自覚し、豊かな社会の創造に寄与する

- ① 地域の特性に応じて書が「**社会で生きる＜場＞**」を設ける
- ② 社会と関連した「**課題解決能力**」の育成につなげる

全体を通して

書を通して、自身との関わりの視点から地域の伝統や文化を深く理解することや、自身と生活や社会との関わりから、伝統や文化の中の自身を認識したり、社会や文化を創造していく自分を強く認識したり、自身の価値を自ら見いだしたりすることで、書や芸術を学ぶ意義、芸術の意味や価値に気づくことにつながる